

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を实践するための制度の理解と活用	5
4．理念を实践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の 見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>41</b>

訪問調査日	平成 20年11月28日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 大形 ————— (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>山崎 由美</u>
	氏名 <u>星野 久美子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>間島 恵子</u>  ヒアリングを行った職員数 ( 5 )人

**項目番号について**  
外部評価は41項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
[取り組みを期待したい項目]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
[取り組みを期待したい内容]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年1月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570102325
法人名	社会福祉法人 大形福祉会
事業所名	グループホーム 大形
所在地 (電話番号)	新潟市東区海老ヶ瀬新町3丁目93号 (電話) 025-256-6187
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成20年11月28日

## 【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	14.8 人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1		1 名	要介護2		10 名	
要介護3		6 名	要介護4		1 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	85.3 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	木戸病院、松浜病院、東新潟友愛クリニック、高橋小児科医院、村井整形外科医院、竹本歯科医院、河渡病院、滝澤診療所
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年、介護保険関連事業から保育園事業まで福祉を手掛ける法人が開所している。住宅地の一角に位置し、近くにはスーパー等大型店があり、毎日買い物に出かけ、地域にも馴染み暮らしやすい環境である。建物は木造平屋建ての2ユニットである。外観は施設的な造りの観はあるが、プランターや季節のオブジェで飾り、温かな雰囲気工夫している。ユニットごとに利用者の特色を生かし、レクリエーションを楽しんでおり、歌声や笑い声が行き交う元気なホームである。職員は明るく前向きであり、利用者・家族と共に事あるごとに話し合い、「気楽に暮らせるといいね」という理念の実践に取り組んでいる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	先回の評価結果を受け、全体会議にて話し合い具体的な改善に取り組んでいる。鍵については何度も話し合い、地域や家族にも協力をしてもらいながら、改善に繋げている。また広報誌を地域に回覧したり、地域活動にも参加し、理念の浸透に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、一人ひとり自己評価したものを全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、利用者・家族・自治会長等計6名で開催しており、ホームの状況報告・情報交換を行っている。地域行事への参加、家族参加の行事、ホームでの避難訓練や地域の避難訓練への参加等、開催するたびにたくさんの意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を明示し説明している。また意見箱の設置もあるが、家族の方とは直接意見をもらえる関係が構築されている。年1回、家族参加の行事の際、アンケートを実施し意見を表せる機会を設けている。結果は職員会議で検討し、家族にも報告し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会長の声かけで、祭りやごみ掃除・小学校の登下校時にパトロールを兼ね散歩を行ったり、茶話会への参加等、地域の一員としての活動にも積極的に参加している。踊り・笛のボランティアや保育園児の訪問、近隣短期大学生の見学・体験等も受け入れ、交流を深めている。来年春には地域住民参加の避難訓練が予定され、災害時の連携体制にも取り組んでいる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時の形式的な理念から、もっと身近な理念をという思いで、平成19年に運営推進会議で「みんなで一緒に話して話して、気楽に暮らしていけるのが一番いいね」という独自の理念を利用者と共に決定し、理念に沿ってその人らしい暮らしを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新採用のオリエンテーション時に理念の説明をして意識づけし、いつでも振り返ることができるように玄関・事務所・食堂・廊下に掲げており、理念の共有・実践できるよう取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	先回の外部評価結果を受け計画した広報誌の回覧を、自治会を通して実現しており、地域の関連施設にも配布し、理解の浸透に努めている。地域の行事に参加し、地域の方にグループホームを理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長の声かけで祭りやごみ掃除、小学校の登下校時にパトロール兼ね散歩を行ったり、茶話会への参加を行っている。来年には地域の作品展に作品の出品が決まっており、積極的に地域と交流することに努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議にて評価の意義を説明し、業務や利用者との関わり方を再確認する機会として、全職員で話し合いを重ね自己評価を行っている。先回の評価結果をこまめに話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者・家族を含めたメンバーで開催している。家族参加の夏祭りや避難訓練についての助言・意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センター職員や介護相談員が運営推進会議に参加しているが、会議の内容をその都度、市や区の担当職員に報告している。また、利用者と一緒に区に出向き広報誌を配布して顔馴染みの関係となっている。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、高齢者虐待防止関連法や虐待の定義・対応方法について研修を行い、全職員で学ぶ機会を設けている。また、職員会議やカンファレンスにて虐待について話し合い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回手紙や広報誌・預かり金出納帳の写しを送付している。面会時や必要時電話連絡を行い、暮らしぶりの報告をしている。職員異動については広報誌に掲載したり、居室担当が変わるたび家族に職員を紹介し報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見を表せる機会を設けているが、利用はあまりなく、直接管理者に意見を表出してくれる方が多い。また、家族参加の行事の際にアンケートをとり、職員間で話し合い、運営に反映させている。家族意見より、職員の写真・名前を玄関に掲示紹介した例がある。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め、職員間で何でも言い合える良い関係が出来ている。会議・親睦会・休憩時間等にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員一人ひとりの思いを運営者に伝え、異動・離職を最小限に抑える努力をしている。代わる場合は異動の期間を1ヶ月くらい設け、引き継ぎをしっかり行い、利用者への挨拶やその後も訪問する等、ダメージを防ぐ配慮を徹底している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備しており、会議等で個別の介護マニュアルを作成して全員に周知している。日頃より、問題提起し適宜見直しを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、法人各事業所が順番に担当となり、積極的に研修機会の確保に努めている。ホームでは職員会議時にテーマを決めて、それに沿った勉強会をしている。個別に自己評価を提出してもらい、資格取得の相談にのり、賞与・昇給時にも反映させている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他ホーム職員との交流の機会は多々あり、区の同業者との交流も少しずつ行っている。地域の介護教室の講師として他事業所のケアマネージャーと交流する等、さらにネットワークづくりを進める取り組みをしている。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を設置し、順番に休憩する時間を確保している。運営者は定期的に事業所を訪ね管理者・職員の話聞き、言い合える良い関係ができています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に話し合いを重ね、利用者・家族の心配していることや職員が気になることを、体験時に確認し、ホームで安心して暮らせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす中で、料理の仕方を教えてもらったり、プライベートの相談にのってもらったり、冗談を言って笑ったり、楽しみながら支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在があってこそ、ホームにおいても穏やかに暮らしていくことができると感じており、一緒に本人を支えていく大切さを伝え関係を築いている。事あるごとに相談し、関係の継続に配慮しながら支援している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと密接に関わり、「どう暮らしたいか」本人・家族より聞き取り、なるべく今までの生活スタイルを変えないように、思いや希望・意向を本人本位に検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により、本人・家族と積極的に話をする機会が増えた。一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握と情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスへの参加を促し、入居後1回は三者で話し合いの機会をを設け、居室担当職員を中心に計画作成担当者・管理者で、本人・家族の意見やアイデアが反映された介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年位をめやすに見直ししている。毎日の経過記録に評価を記入したり、日常的にモニタリングを行う等、課題の把握や変化に気づきやすいように工夫している。、状態変化時にも家族に意見をもらい、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣のサービスの利用、買い物・自宅への外出やかかりつけ医の通院支援等、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により今までのかかりつけ医に受診している。職員が付き添い、利用者の状態を医師へ情報提供し適切な医療が受けられるよう支援している。同法人看護師を週3回確保し、医療連携体制を確立している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内で重度化や終末期に向けた指針を作成し、家族に「看取り同意書」を記入してもらい、医師を含め話し合い、全員で方針を共有している。ホームでできることを明確にしており、利用者の状態に応じて段階的な支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないようさりげない言葉かけや対応に努めている。個人情報についてはマニュアルに沿って対応し、会議で話し合ったり、研修で学ぶ機会を設けプライバシーを確保している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩に出かけたり、一人ひとりのペースや希望を大切に、メリハリを持って日々を送れるよう柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付け等、一人ひとりの有する力を活かして一緒に食事づくりを行っている。かわいいランチョンマットを使用する等工夫をして、職員と会話しながらの季節感や五感を刺激する食事は楽しみなものとなっている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表により排泄パターンを把握している。オムツ・パッドはできるだけ使用しないように自立に向けた支援を行っており、改善が見られた利用者もいる。排便も薬に頼り過ぎず自力でできるように、運動や水分摂取、繊維の多い寒天ゼリーを食べる等工夫し、効果を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、ほぼ毎日入浴できるよう支援している。入浴剤やみかん湯等、楽しみな工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯等、本人の生活歴や得意な分野を活かした役割があり、能力に合わせ自立支援をしている。外出支援は個々の役割を活かし、楽しみ・気晴らしになるよう計画・実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材・日用品の買い物、散歩等、希望に沿って日常的に外出を支援している。利用者・家族の希望にて個別の外出にも対応している。また、月に1回は全員でドライブに出かけたり、外食を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを策定している。、全体会議で「禁止となる具体的な行為」について話し合い勉強会で学んだり、マニュアルを利用して全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	会議等で全職員が弊害を理解している。職員が対応困難時、一時的に施錠することは先回評価と同様だが、個々の気分・状態を把握し、職員間・地域との見守りや連携プレーを徹底する等、工夫を重ね鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記録し、予防策を検討している。状態に応じ、個別の介護マニュアルも作成しケアに活かしている。1ヵ月後に対応策の評価を行い、一人ひとりに応じた事故防止の共有・徹底に努めている。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡がスムーズにできるように独自のフローチャートを作成する等工夫し備えている。救命講習を職員全員が受講し、マニュアルに応じた訓練を行い、周知・徹底に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを策定し、普段より消火器訓練や避難方法の説明を行ったり、年2回消防署指導のもと避難訓練を実施している。備蓄・防災セットが各ユニットに準備されている。今後、地域と連携し、夜間想定訓練も予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に献立を確認してもらい、栄養バランスを考えた食事を提供している。毎食後、食事量・水分量のチェックをし、調整している。お茶を好まない方には寒天ゼリーやイオン飲料等で摂取を促し、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にプランターを設置し、花や季節のオブジェが飾られ、利用者の作品が「ミニギャラリー」として展示されている。施設的な造りを手作りの作品・写真・テーブルクロス・カーテン等で明るく家庭的な雰囲気に配慮している。ソファを設置し、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室にはベッド・テレビ・洗面台が設置され、家族の写真や手作りのプレゼントを飾っており、馴染みのものを自由に持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		